

アスベスト問題への対応

非飛散性アスベストへの対応に取り組みました。

1980年代後半から京都大学はアスベスト問題に積極的に対応してきました。最近のアスベストを取り巻く社会状況の変化にも、アスベスト問題専門部会を発足させて対応を進めてきたことは京都大学環境報告書2006で紹介しています。

引き続き2006年度は、最もリスクが高いと考えられる飛散性アスベスト建材の除去を最優先に実施し、計画を完了しました。

次のステップとして、非飛散性アスベスト建材及びアスベスト含有設備機器・実験機器への対応に焦点をあてています。

非飛散性アスベスト建材への対応を行うにあたっては二つの問題点が

考えられます。一点目は使用所在場所がよくわかっていないか、わかっても作業者に十分認識されていないことです。二点目の問題点は非飛散性ということ作業者がリスクを過小評価してしまう傾向があることです。非飛散性アスベストは、手を加えたり、劣化したりすることで飛散性になりうるということが、作業者に十分理解されているとはいえません。

そこで、本学では非飛散性アスベスト建材の所在を明らかにしたアスベストマップを作成公開することにしました。また、作業の内容を分類し、その分類に応じて注意すべき事項を整理して学内に通知しました。あわせてアスベストを使用している建築

物の改修等を行う際の相談窓口も設置しています。

アスベスト含有設備機器・実験機器への対応については、多くの学内関係者の協力を得て進めなければなりません。まずは保有状況を把握する必要がありますが、設備機器・実験機器への対応は京都大学としても初めての経験です。そこで全学的な調査を行う前に、今年度は一部の部局でパイロット調査を実施し、ノウハウを積み上げることにしました。並行してアスベスト使用実験機器や設備機器に関する指針の作成に取り組み、2007年度には公表する予定です。

■京都大学のアスベストに関するお問い合わせは
京都大学環境安全衛生部環境安全衛生課環境計画グループ
電話：075-753-2383 ファックス：075-753-2355
へお願いします。